

## Ⅱ 調査結果の概要

一部で回復の兆しが見られるも、依然として足踏み状態が続く

### 1. 全体の概況

売上高と収益性を合わせたD I 平均値（前年同期比）〔※「前年同期比」は、28年1-3月期と比較した値。以下、「同期比」と表記〕については、▲17.8となり、前回調査(28年10-12月期)の▲22.3から4.5ポイント上昇している。来期見通しにおいては、さらに8.5ポイント上昇して▲9.3となる見通しになっている。

売上高D I（同期比）については▲16.1となり、前回調査から9.4ポイント上昇している。来期見通しにおいては7.5ポイント上昇して▲8.6となる見通しになっている。

収益性D I（同期比）については▲19.5となり、前回調査から0.5ポイント下降している。来期見通しにおいては9.6ポイント上昇して▲9.9となる見通しになっている。

業況D I（同期比）については▲16.7となり、前回調査から0.5ポイント下降している。来期見通しにおいては12.6ポイント上昇して▲4.1となる見通しになっている。

原材料価格D I（前期比）については23.0となり、前回調査から9.3ポイント上昇している。

販売価格D I（前期比）については▲8.2となり、前回調査から1.3ポイント下降している。

資金繰りD I（前期比）については▲12.2となり、前回調査から1.4ポイント下降し、悪化している。

金融機関の態度D I（前期比）については5.0となり、前回調査から4.5ポイント上昇し、緩和している。

設備投資実施率については27.1%となり、前回調査から8.9ポイント下降している。業種別で高い実施率となったのは「プラスチック製品」・「機械・機器」・「食料品」、目的別では「品質向上」が33.3%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については31.3%となり、前回調査から0.9ポイント下降している。

設備操業率D I（前期比）については▲13.4となり、前回調査から7.6ポイント下降している。











雇用人員判断D I（前期比）については14.4となり、前回調査から4.2ポイント下降しているが、依然として不足感が続いている。

全体の景況天気図は、26年7-9月期に「曇」から「小雨」に転じて以降、11期連続して「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

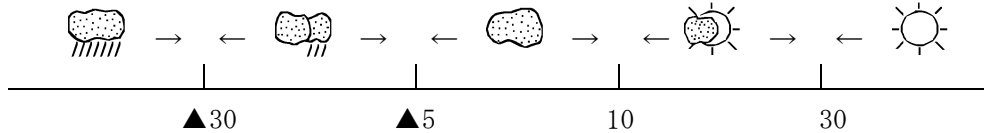
業種別に見ると「金属・同製品」・「紙・加工品」は「小雨」から「曇」、「窯業・土石製品」・「機械・機器」は「雨」から「小雨」へそれぞれ天気図が回復している。反面、「プラスチック製品」は「薄日」から「小雨」、「繊維・同製品」は「小雨」から「雨」へそれぞれ悪化している。また、「木材・木製品」・「食料品」は「小雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「金属・同製品」・「紙・加工品」は「曇」、「機械・機器」・「食料品」・「窯業・土石製品」・「木材・木製品」・「プラスチック製品」は「小雨」、「繊維・同製品」は「雨」が続き、全業種において今回調査同様の天気図となる見通しである。

【図表 1】

	27				28				29	来 期 見 通
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	
全 体	 ▲14.0	 ▲20.1	 ▲21.9	 ▲14.9	 ▲20.6	 ▲22.2	 ▲21.3	 ▲22.3	 ▲17.8	 ▲9.3

※景況天気図は「売上高」「収益性」(同期比)のDI平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

